

ZEH水準の断熱

NET ZERO ENERGY HOUSE (INSULATION)



季節を問わず、いつも心地いい。

ブルーミングガーデンでは、従来の等級4から一段階引き上げ、ZEH水準に相当する断熱等性能等級5を全棟で取得しています。



断熱性能とコストのバランスを考えた最適解
断熱等性能等級5(ZEH水準)を全棟で取得

2022年に等級が新設されたこととともない、断熱等性能等級の基準を引き上げました。2030年、義務化の基準が等級5に変更となる計画があり、従来どおりの等級4では断熱性能が基準以下の住宅になってしまう可能性があるため、先んじて対応しました。

断熱性能Ua値 ※Ua値は断熱地域区分5.6の区分

当社の最適解!	0.26	等級 7	令和4年10月施行 (HEAT20 G3基準相当)	2030年度 適合義務化 予定
	0.46	等級 6	令和4年10月施行 (HEAT20 G2基準相当)	
	0.60	等級 5	令和4年4月施行 ZEH水準	2025年度 適合義務化
	0.87	等級 4	平成11年基準 (次世代省エネ基準)	
	1.54	等級 3	平成4年基準	
	1.67	等級 2	昭和55年基準	
	-	等級 1	法規制なし	

ZEHとは

ネット・ゼロ・エネルギー・ハウスの略で、住宅の断熱性能とエネルギー効率の高い設備機器による「省エネ」と、太陽光発電などによる「創エネ」を組み合わせ、住宅の一次エネルギー消費量がゼロ、またはマイナスになる住宅のことです。

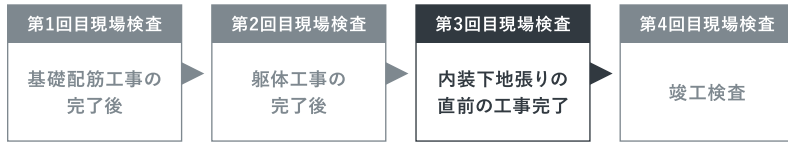
なぜ「等級5」なのか?

断熱等性能等級6、7の厳しい基準をクリアするためにはさらなる断熱材や設備の強化が必要となり、住宅価格の上昇が避けられません。ブルーミングガーデンでは断熱性能とコストのバランスを考えた上で、断熱等性能等級5が最適解であるとの結論に至りました。

国が認めた外部評価員が 施工状況を1棟1棟チェック



建設中に3回と完成時の計4回、設計書どおりに施工されているかどうかを現場でチェックするのが、建設住宅性能評価。断熱材や防湿フィルムの施工状況は3回目の現場検査で確認されますが、ブルーミングガーデンでは事前により一層厳しい自社検査も行い、厳しく評価しています。

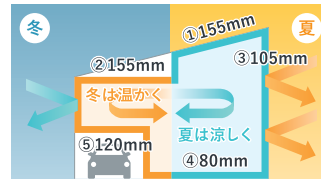


「性能評価書よりも厳しい
自社基準」で断熱材の
施工状況をチェック

高性能グラスウール断熱材

室内の壁・床下には厚さ80mm、天井には厚さ155mmのグラスウール性断熱材を使用しています。グラスウールはガラスを繊維状にしたもので、断熱性をはじめ吸音性にも優れた素材です。

※現場やエリアによって仕様が異なる場合があります。

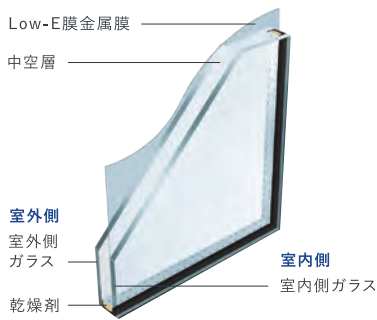


- 屋根断熱材 …… ①厚さ155mm
- 天井 …… ②厚さ155mm
- 壁 …… ③厚さ105mm
- 外気に接する床 …… ④厚さ80mm
- その他床 …… ⑤厚さ120mm

住宅の断熱は「開口部」で決まる

Low-E複層ガラス

室内の暖房熱を逃さず、結露の発生を抑えられる複層ガラスに高断熱Low-E膜をコーティングすることで、採光性を確保しつつ紫外線をカット。光熱費の節約にもつながります。



- 採光性
- 日射取得
- 高断熱
- 結露抑制

断熱ドア

窓の断熱に加え、玄関ドアの断熱性能を高めることで、住宅全体の断熱性を向上。温度差の少ない快適な住まいの実現で、消費エネルギーとCO₂を効果的に削減します。

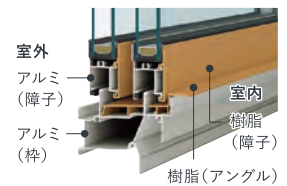
※現場やエリアによって仕様が異なる場合があります。



アルミ樹脂複合窓

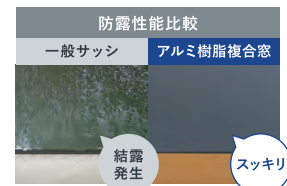
断熱性

軽くて強いアルミサッシの特長に加え、室内側を樹脂にすることで断熱性をアップ。



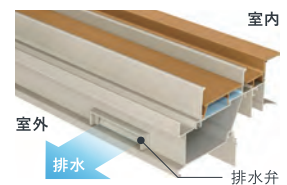
結露抑制

アルミサッシと比べて結露しにくく、お部屋を清潔に保つことができます。

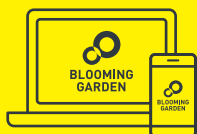


高い水密性

サッシの下枠の部分には、雨などの水もスムーズに排水される構造を採用。



※このイラストはイメージです



ZEH水準の断熱について、もっと詳しく知りたい方はこちらをチェック！
https://www.e-blooming.com/pride/pride_11.html

